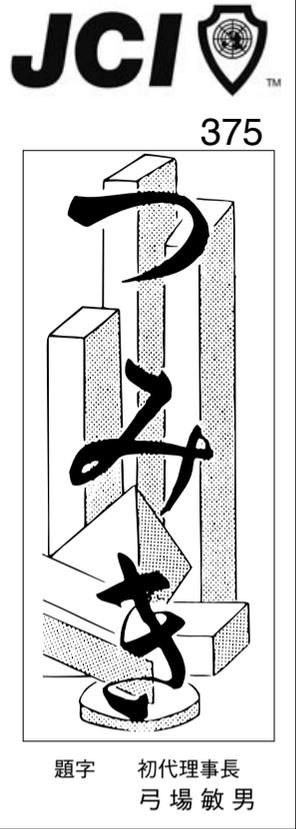


社団法人 因島青年会議所

そして四十年を迎えて、送る



写真で見る40年のあゆみ



'68 認承証伝達式



'71 ミュージックフェスティバル



'73~ 市内小中学生作文発表会



'88 芸予諸島サミット



'94 しまっ子、体験スクール



'96 東ちづるさんを迎えての第26回広島ブロック会員大会



'97 しまなみJCカップ少年サッカー大会



'02 いんのしま青少年議会



'03 因島市長選挙公開討論会

四十年と聞けば「初老」と即ち反応した。初老とは、老境に入りかけたところで、四十歳のことを指す。



社団法人因島青年会議所は、一九六七年に設立、翌年全国で三七五番めの青年会議所として承認され四十周年を迎えました。今回、設立当初から関わられ、初代理事長、そしてOB会会長として現在もご活動されている土生商船(株)代表取締役会長弓場敏男様に手記を頂きました。

「もうはまだ」は、もう四十年と申されるか、まだ四十年かの心の響きより来る差は、思いの丈(あるかぎり)を知るものだ。生まれ赤子が四十年の歳月をかけて、成長し初老の境を訪

「もうは返ってこない。」前向きに喘いで進んでいる時に、一休憩して振り返り見る景色の違いこそが、心のゆとりであり、この差には大きな意味がある。

「未来は遠く過去は近い」を実感しまさに過去は近いが、明日という未来はとてつもなく遠いように思われます。若い時には夜に目をつむり、目覚めると朝がそこにあった。

初に、社団法人因島青年会議所の創立四十周年を迎えられ誠にありがとうございます。越し方の四十年と、これから来るのであろう五年、十年四十年の歳月に思いをはせる機を与えられて、感ひとしおなるものがあります。

「明日」を迎えられ、踏み堅めて来た上に築かれた「四十年」の歳月を土台に、大きくステップアップすることを願望します。言い古れた語に「ローマは一日にして成らず」を置き換えて、『因島青年会議所』は、一日にし

限りなく広く深く、大きな「明日」を迎えられ、踏み堅めて来た上に築かれた「四十年」の歳月を土台に、大きくステップアップすることを願望します。

世の先人、諸先輩とて同じで、人生道は多少の違いはあったとしても、営々と辿って来た一本の道標こそが支えとなって助けてくれるので。今、迎えて：送る。有意義にならしめるこの節目を夢、疎かにするでない。

青春の息吹きは青春の時期だけのものではなく、その残照は心のどこかに巣暮らっている。試練が修練と変化し、一端の人格者に磨かれ、すばらしい成人になる姿を示し、己の歴史でもあり、人生の道標として培われて来た。



'84 第1回 因島水軍まつり

て成らず。明日の夢を持つてください。尊い歴史の上に築き育てられた、友情という若き日の絆を新しめて温め直す、与えられた「創立四十周年社団法人因島青年会議所」に、心より満腔の喜びをもって、お祝いとします。おめでとうございます。

因島青年会議所OB会会長

弓場 敏男